

H30年度 高校改革アンケート 調査結果報告

平成31年3月

高校改革・特別支援教育課

目 次

I 調査の概要	1
II 調査結果	3
1 全県一学区制度について	4
2 前期募集制度について	6
① 前期募集の評価	6
② 前期募集を評価する理由	8
③ 前期募集を評価しない理由	10
④ 前期募集の募集率	11
⑤ 前期募集への出願	12
⑥ 前期募集の準備期間	13
⑦ 前期募集の出願理由	14
⑧ 前期募集の不出願理由	15
⑨ 前期募集の実施時期	16
⑩ 前期募集合格者の状況	17
3 学校選択・高校生活等について	18
① 学校選択の理由	18
② 学校選びの参考	21
③ 生徒の通学時間	22
④ 高校卒業後の希望	24
⑤ 希望する高校の教育・活動状況	25
⑥ 高校に関して知りたい情報	26
⑦ 高校の満足度	27
⑧ 地域の高校の満足度・特色ほか	31
⑨ 高校に関する情報	33
4 魅力ある高校づくりについて	34
① 連携型中高一貫教育について	34
② 多様なニーズへの対応	35
③ 設置を希望する学科	36
④ 公立高校に求める施設や設備	37
⑤ 高校と地域との関わり	39
⑥ 今後の地域との連携・協働	40

I 調査の概要

1. 調査の目的

県内の中学生、高校生、保護者並びに中学及び高校の教員の入試制度や公立高校に対する考えや意見を把握し、今後の高校改革推進のための資料を得る。

2. 調査対象

- | | |
|-----------|--------------------------------------|
| (1) 中学3年生 | 全県から地域の偏りなく抽出した中学校(34校)の1学級の生徒全員 |
| (2) 高校1年生 | 県立高校(全日制27校及び定時制7校)及び甲府商業高校の1学級の生徒全員 |
| (3) 保護者 | (1)及び(2)の保護者 |
| (4) 教員 | (1)の中学校及び(2)の高校の全学年全クラス担任 |

3. 調査方法

各学校を通じて調査票を配付の上実施

4. 調査時期

平成30年12月

6. 回収結果

調査対象者	対象数（人）	回収数（人）	回収率
中3生徒	943	920	97.6%
中3保護者	943	892	94.6%
中学校教員	368	368	100.0%
高1生徒	1,133	1,133	100.0%
高1保護者	1,132	1,115	98.5%
高校教員	560	559	99.8%
合計	5,079	4,987	98.2%

参考

(1) 比率(%)は、各項目ごとに小数点第2位を四捨五入してあるので、合計が100%にならない場合もある。

(2) 各設問において、全体の傾向を示し、必要に応じて次のとおり分析を行った。

- 経年 昨年度以前の本調査との比較
- 調査対象者別 その設問に回答した調査対象者ごとに分析
- 学科別 学科ごとに分析
- 居住地別 生徒の居住地ごとに分析
- 地域別 学校所在地域ごとに分析

【調査対象者】 全一学級児童の調査結果

児童の大半が「はい」と回答し、児童の大半が「はい」と回答した。また、児童の大半が「はい」と回答した。

児童の大半が「はい」と回答し、児童の大半が「はい」と回答した。また、児童の大半が「はい」と回答した。

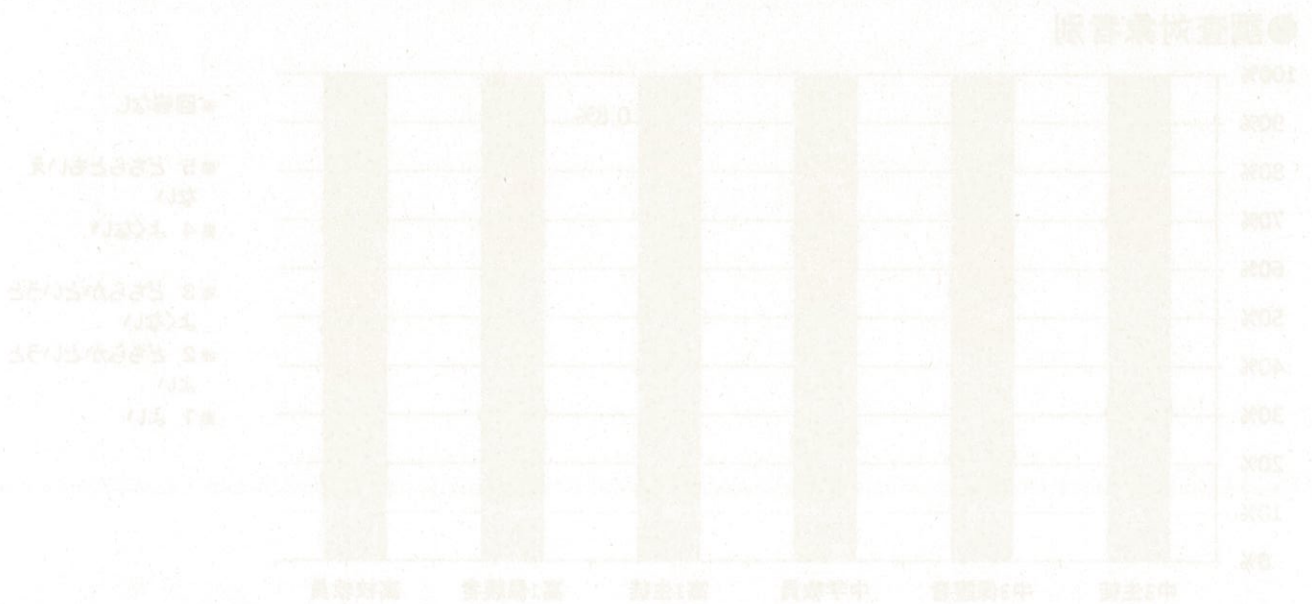
児童の大半が「はい」と回答し、児童の大半が「はい」と回答した。また、児童の大半が「はい」と回答した。

Ⅱ 調査結果



【100% 回答率】

児童の大半が「はい」と回答し、児童の大半が「はい」と回答した。また、児童の大半が「はい」と回答した。



児童の大半が「はい」と回答し、児童の大半が「はい」と回答した。また、児童の大半が「はい」と回答した。

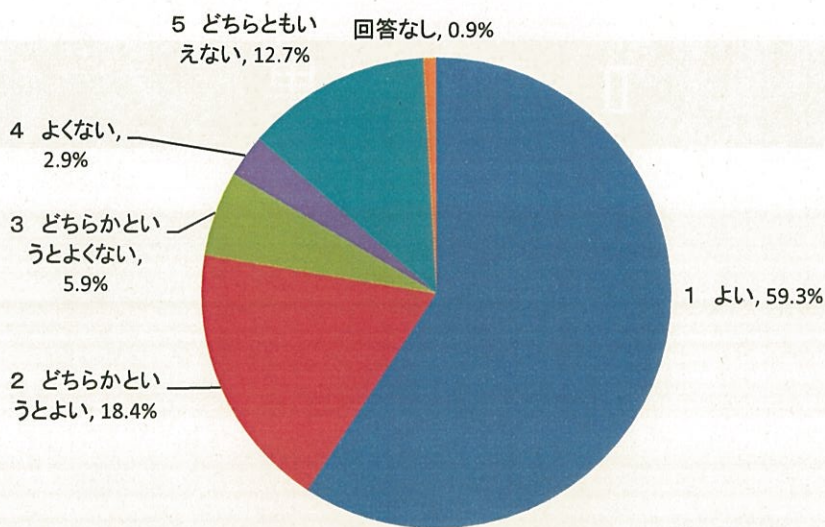
1 全県一学区制度について

【全調査対象者】

平成19年度入試より導入された全県一学区制度について、どのように考えるかを尋ねた。

(質問) 公立高校の入試は、県内どこからでも志願できる全県一学区制となっています。この制度についてどう思いますか？(次の中から1つ選んでください。)

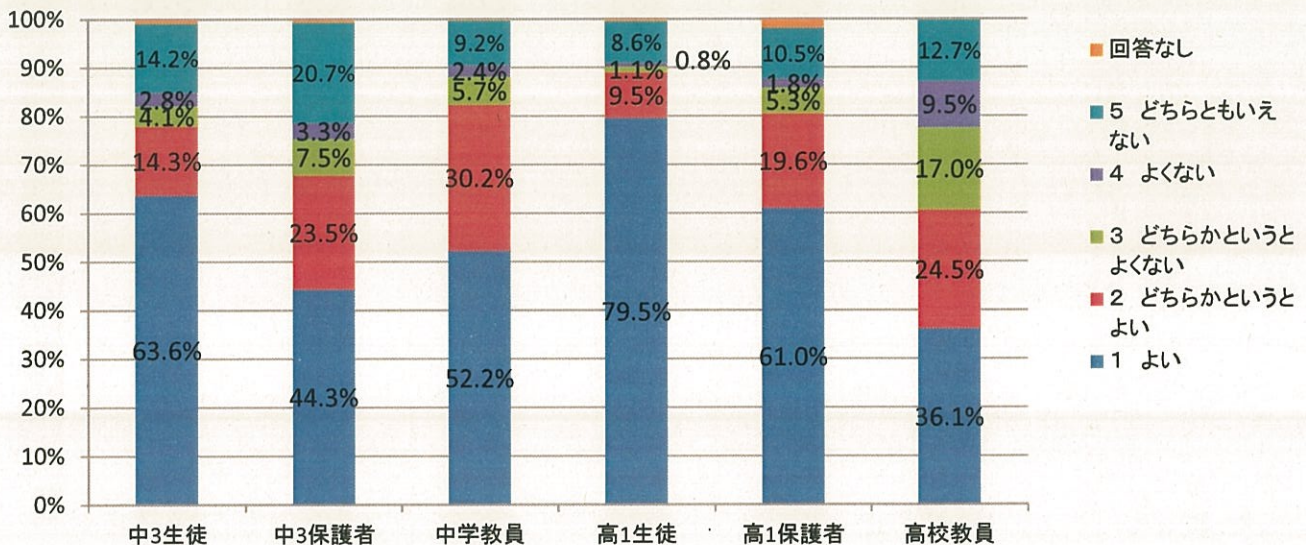
- 1 よい
- 2 どちらかというとい
- 3 どちらかというとい
- 4 よくない
- 5 どちらともいえない



【回答数:4987】

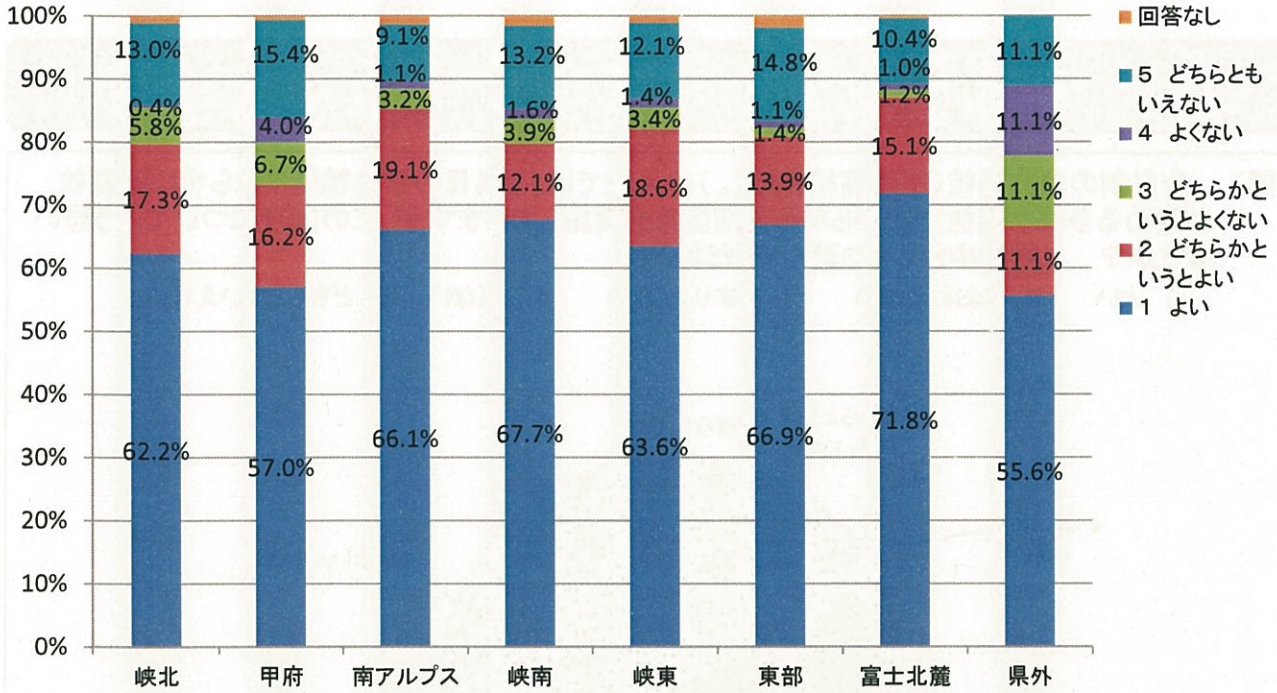
肯定的な回答が77.7%、否定的な回答が8.8%である。

●調査対象者別



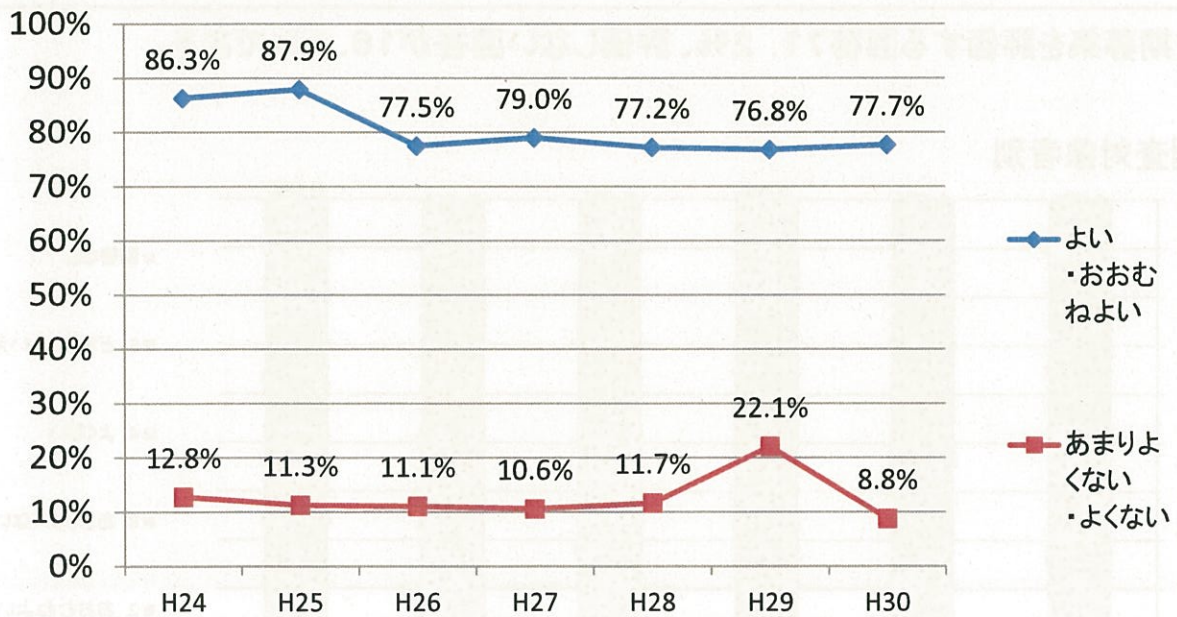
調査対象者別では、ややばらつきがあるものの全体的に肯定的な回答が多い。

●居住地別（生徒及び保護者）



居住地別では、甲府地域の肯定感が相対的に低いが全体的に肯定感が高い。

●全県一学区制度評価の推移



※ H26調査より選択肢「どちらともいえない」を追加

H29調査より選択肢を「よくない」から「見直した方がよい」に変更。

H30調査では、「見直した方がよい」から「よくない」に変更。

2 前期募集制度について

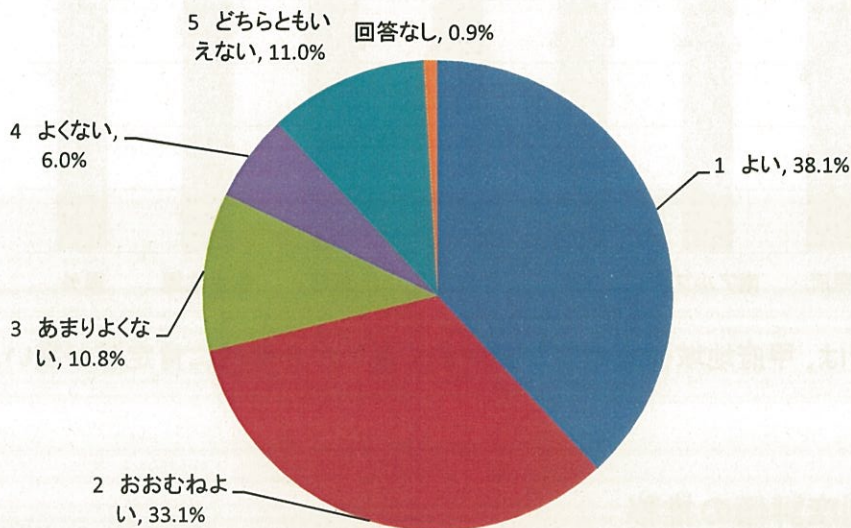
平成19年度入試より導入された前期募集制度について、どのように考えるかを尋ねた。

① 前期募集の評価

【全調査対象者】

(質問) 全日制の公立高校(甲陵高校を除く。)の入試では、5科目の学力検査によらずに各高校が定める多様な選抜方法からなる前期募集を実施していますが、この制度についてどう思いますか？ (次の中から1つ選んでください。)

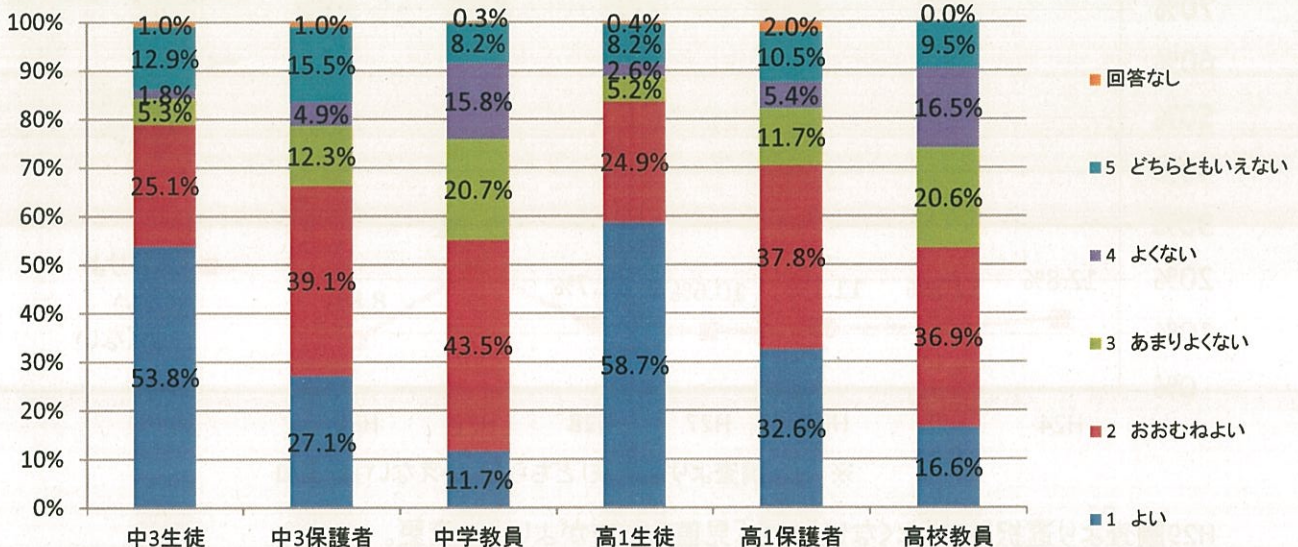
1 よい 2 おおむねよい 3 あまりよくない 4 よくない 5 どちらともいえない



【回答数:4987】

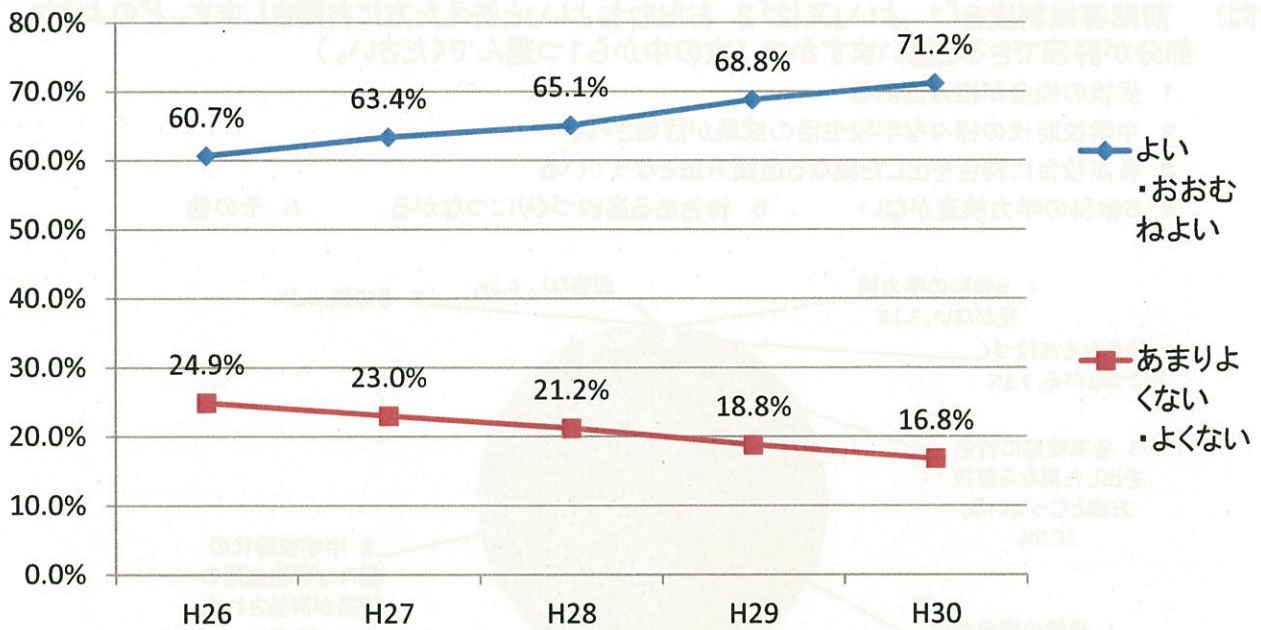
前期募集を評価する回答71.2%、評価しない回答が16.8%である。

●調査対象者別



調査対象者別では、中学教員と高校教員で前期募集を評価しない回答が多い。

●前期募集評価の推移



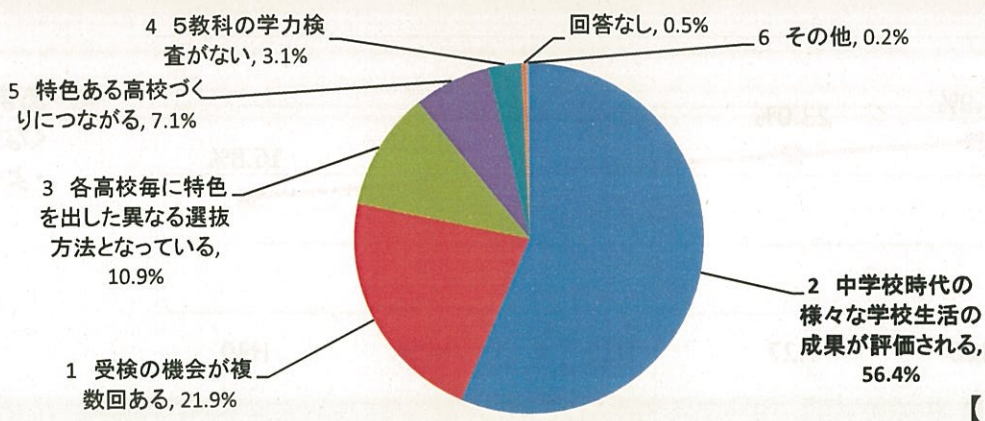
過去5年間の調査結果の推移によると、前期募集を評価する回答の割合が上昇し、評価しない回答が下降している。今後も、よりよい制度となるよう、改善を重ねていく必要がある。

② 前期募集を評価する理由

【前期募集に肯定的な評価をした者】

(質問) 前期募集制度を「1 よい」又は「2 おおむねよい」と答えた方にお聞きします。どのような部分が評価できると思いますか？(次の中から1つ選んでください。)

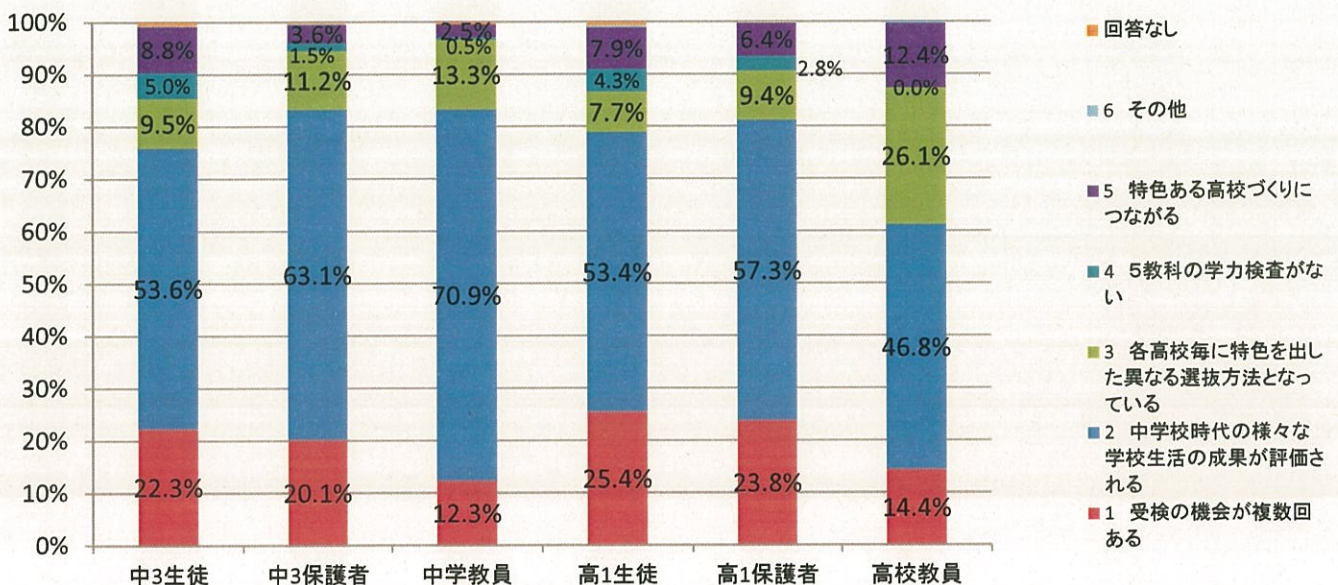
- 1 受検の機会が複数回ある
- 2 中学校時代の様々な学校生活の成果が評価される
- 3 各高校毎に特色を出した異なる選抜方法となっている
- 4 5教科の学力検査がない
- 5 特色ある高校づくりにつながる
- 6 その他



【回答数:3551】

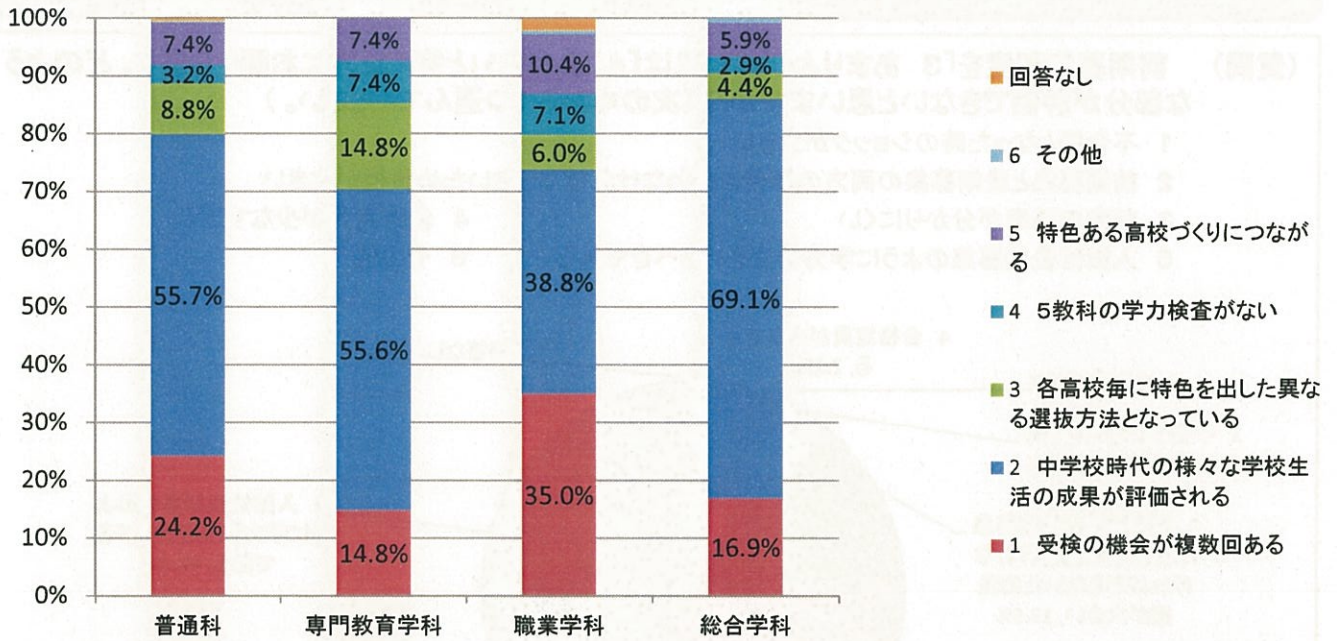
前期募集は主に「中学校時代の学校生活の成果が評価される」点において評価されている。

●調査対象者別



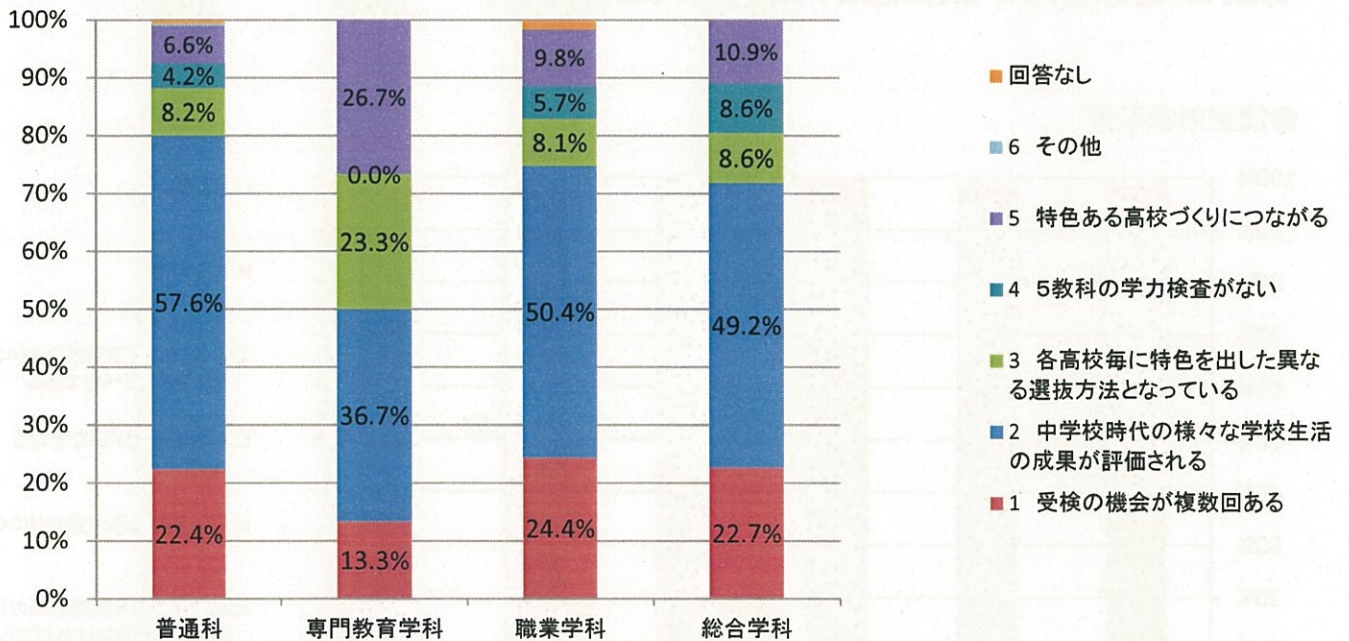
調査対象者別では、中学教員で「中学校時代の様々な学校生活の成果が評価される」の回答率が高い。また、高校教員では「各高校毎に特色を出した異なる選抜方法となっている」「特色ある高校づくりにつながる」の回答率が他の調査対象者より高い。

●学科別(高1)



高1生徒が在籍する学科別では、総合学科で「中学校時代の様々な学校生活の成果が評価される」が他の学科在籍者よりも多い。

●学科別(中3)



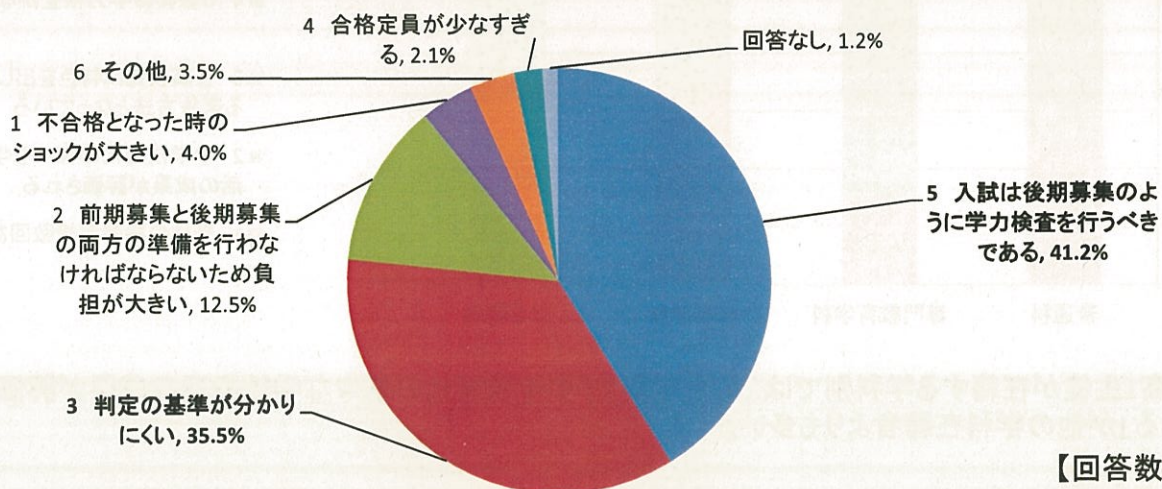
中3生徒が希望する学科別では、専門教育学科希望者で「中学校時代の様々な学校生活の成果が評価される」が他の学科希望者より少なく、「各学校毎に特色を出した異なる選抜方法となっている」「特色ある学校づくりにつながる」が多い。

③ 前期募集を評価しない理由

【前期募集を否定的に評価した者】

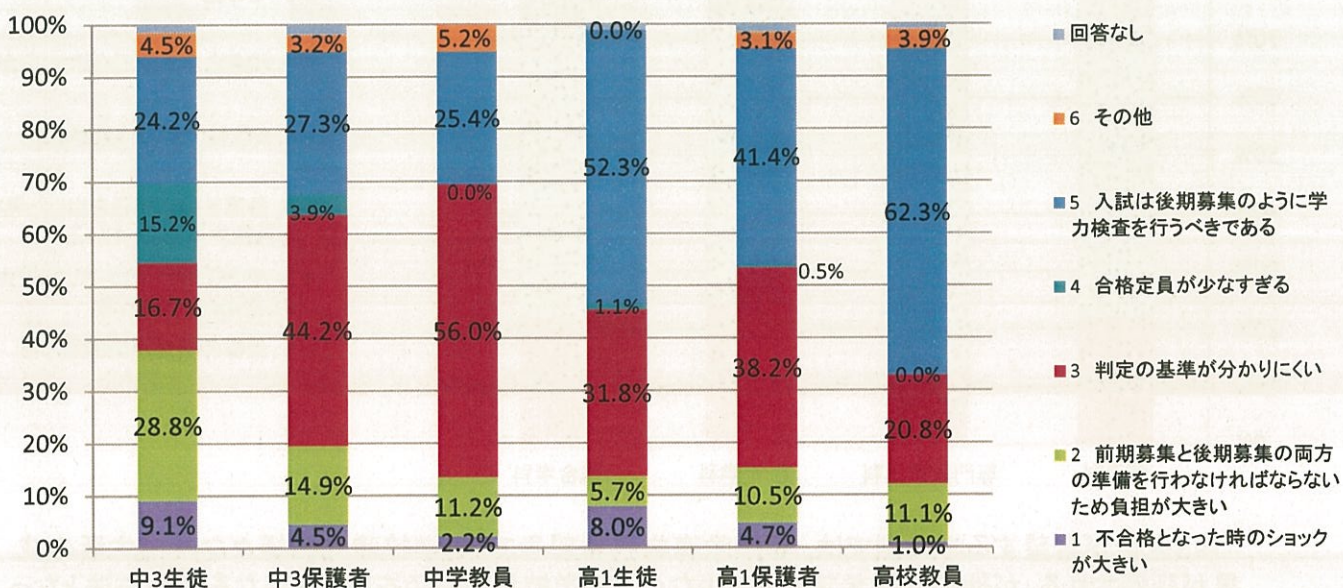
(質問) 前期募集制度を「3 あまりよくない」又は「4 よくない」と答えた方にお聞きします。どのような部分が評価できないと思いますか？(次の中から1つ選んでください。)

- 1 不合格となった時のショックが大きい
- 2 前期募集と後期募集の両方の準備を行わなければならないため負担が大きい
- 3 判定の基準が分かりにくい
- 4 合格定員が少なすぎる
- 5 入試は後期募集のように学力検査を行うべきである
- 6 その他



前期募集を評価しない主な理由は、「学力検査を行うべき」「判定の基準が分かりにくい」点である。より透明性の高い検査制度とするよう努める必要がある。

●調査対象者別



否定的評価の要素として、中3生徒では、「前期募集と後期募集の両方の準備の負担」「学力検査を行うべき」の回答が多い。中3保護者では「判定の基準が分かりにくい」が多い。

中学教員では、「判定の基準が分かりにくい」が半数以上を占める。

高校教員では「学力検査を行うべき」が半数以上を占める。